

「第9回中南米日系社会との連携調査団」

福岡県と佐賀県の2社がブラジルでビジネス展開可能性を調査！

2020年2月2日から15日までの14日間、「第9回中南米日系社会との連携調査団」がブラジルに派遣されました。同国でのビジネス展開に関心を有する13社のうち、九州地方からは農業分野と食品分野でそれぞれ強みを持つ以下の2社が参加しました。

1. 川原茶業株式会社（佐賀県嬉野市、ブレンド茶卸）
2. 株式会社アグリツリー（福岡県那珂川市、営農型太陽光発電導入維持管理）

調査団は、約2週間の行程の中でサンパウロ州、パラナ州、ミナス・ジェライス州の3州を訪問し、現地で活躍するブラジル企業・日本企業、日系農業協同組合や農家等を視察しました。各訪問先において、遠い昔に日本から海を渡った日本人移住者及びその子弟によって築かれた日系社会への理解を深めるとともに、開発課題に関する情報収集や自社製品の発表、現地関係者との意見交換を行いました。

2月2日に到着した同調査団は、まずは1978年、移民70周年記念事業としてサンパウロに落成した「ブラジル日本移民史料館」を訪問し、日本移民の歴史について理解を深めました。2月8日には、同じく移民70周年記念事業として建設されたパラナ州ロランジアにある「ロランジア日本移民史料館」を訪問しました。日本から持ち込まれたものやブラジルで購入されたものなど、生活用品や道具と言った数多くの展示品から、当時の移民の方達の想いや苦労を実感しました。

13社は各分野に分かれた現地視察を行い、川原茶業株の川原氏は、食品分野の一員として日系病院や和菓子製造会社、地元スーパー等を視察し、面談者と情報収集や意見交換を行いました。(株)アグリツリーの西氏は、農業分野の一員として野菜農家や日系農業協同組合、オーガニック野菜農家等を訪問し、現地の農家が抱える課題について情報収集をするとともに、農業関係者らと意見交換を行いました。

サンパウロ州イビウナ文化体育協会・婦人会を訪問した際には、日系人の食の好みや物流、婦人会の各種活動の意義について、日系社会の世代を超えた交流や活発な意見交換が行われました。パラナ日伯文化連合会（アリアンサ）のロンドリーナ・モデル校を訪問して川原茶業株の川原氏が出前授業も行い、学校からは「日本人から日本文化と日本語を教えてもらう貴重な体験となった。座学のみならず体験してみる事の大切さを再認識した。」との感想を頂きました。

調査団の行程では、現地視察のみならず、訪問各地でビジネスネットワーキングや商談会も実施しました。2月4日にはサンパウロ、2月7日にはロンドリーナ、2月10日にはクリチバ、2月12日はベロオリゾンテにて、それぞれセミナーや商談会を行い、ブラジル各地で自社の製品・サービスをPRしました。同調査団参加後の展開として、JICA「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」への応募や、自社でのブラジル出張・継続調査を検討している参加企業もあり、これからの動向が注目されます。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 九州 市民参加協力課 担当：上島
 TEL:093-671-8204 FAX:093-671-0979 E-mail：
 Kamishima.Atsushi@jica.go.jp

世界で役立つ九州が役立つ！
 JICA九州ウェブサイト
<https://www.jica.go.jp/kyushu/>



2月4日 サンパウロで開催されたビジネスセミナーにて ブラジル現地企業とネットワーキングを行う(株)アグリツリー 西代表取締役（写真中央）



2月6日 イビウナ文化体育協会 婦人会向けにお茶の実演を行う(株)川原茶業 川原取締役専務（写真左）最後は終了を惜しむ声があちこちから挙がる程、大盛況に